

頭上の屋根：スリランカの自由貿易地域（FTZ）における女性労働者の 宿泊施設のニーズ

ディシャーニ・セナラトネ（スリランカ）

当初は輸出加工区（EPZ）として知られたスリランカ初の自由貿易区（FTZ）が、1978年にカトゥナヤケに設立されました。そして、当時のジャヤワルダナ政権が海外の投資家に対しさまざまな優遇措置を提供したことにより、その後、ビヤガマ、コガラ、ミリガマ、マルワッテ、ワスピティワラなどの他の地域にも FTZ が設立されました。設立以来、FTZ で事業を展開する企業は圧倒的にアパレル輸出業者が多く、手袋や宝飾品等の製造へ多様化が進む傾向にあります。

FTZ で働く人々は主に雇用を求めて大都市に移住してきた女性たちです。彼女たちの多くが最低限の教育しか受けておらず、資格等もほとんど持っていません。彼女たちの関心事は、ダウリー（婚姻において女性側から男性側に贈与される持参金）や家の建設、家族や兄弟姉妹への財政援助のために貯蓄をするといった短期的な個人の目標の達成です。政府軍とタミル・イーラム解放の虎（LTTE）との内戦が 2009 年に終結したことにより、北部や東部から FTZ に出稼ぎに来るタミル人女性の数が飛躍的に増加しました。そこでは多くの企業が食事だけでなく、交通手段なども割引料金で従業員に提供していますが、それでもなお、周辺地域に急ピッチで建設された窮屈な宿泊所は、FTZ で働く労働者の悲惨な生活について多くを物語っています。



カトゥナヤケ（Katunayake）の下宿

適切で手頃な価格で宿泊施設を利用できることは基本的な人権として認められています。しかし、FTZ で働く女性労働者の宿泊所に対するニーズは、企業からも投資委員会（BOI：FTZ を監督する政府の最高機関）からもほとんど無視されています。プライバシーが十分に保たれていない個人経営の安普請の下宿では、当然、女性はセクハラや暴行を受けやすくなります。また、いわゆる「下宿のおばさん」（地主に雇われている目付役的な女性）が運営するこのような宿泊所では、劣

悪な衛生環境により女性が病気になるケースも見られます。毎月の電気代を節約するため石油ストーブで調理する人もおり、自身の健康をリスクにさらしています。悲しいことですが、法外な毎月の家賃を払えない女性労働者は、せまい部屋に住むしかありません。言い換えれば、目標さえ達成すれば彼女たちはきっと故郷に戻らうという一般的な人々の意識が、仕事で頑張ろうとする彼女たちの意欲を削いでいるのです。

経済へ多大な貢献をしているにもかかわらず、皮肉にも彼女たちは *juki keli* (ジュキケリ：衣類業界の労働者への蔑称) というレッテルを貼られています。2003 年、縫製工場の女性労働者を称える 6 曲の歌が、FTZ で働く名もなき英雄たちの応援ソングとして、アパレル協同組合フォーラムからリリースされました。女性労働者が社会的に悪いイメージを持たれているのは、縫製工場の不十分な労働条件にその一因があるようです。女性労働者が比較的従順であることにつけ込み、多くの雇用主が非現実的な「(週の生産高の) 目標」を達成せよと圧力をかけていると言われています。



この部屋に住む縫製工場の用務係

女性と児童省は、あらゆるレベルの女性にとってより良い職場環境を創出するという大きな役割を担っています。言うまでもなく、手頃な価格の宿泊所を提供するという解決策が、従業員の満足度を上げる最初の一步です。資格なども持たない FTZ の女性労働者たちの権利を無視することは、まだ国内でも国際的にも解決されていないガラスの天井問題を悪化させることとなります。

就任から 1 か月を経たスリランカのゴーターバヤ・ラージャパクサ大統領は、経済成長と国家安全保障の確保という誓約を繰り返し訴えています。これを背景に政府は、働く女性に関連する問題よりも、「より広い経済的、社会的問題」に焦点を当てていくことになるでしょう。国の農村部に衣料品工場を建てるだけでは、女性を労働力として惹きつけ引き止めておくことはできません。政策立案者が女性の労働力参入に影響を与えている要因を理解しない限り、スリランカが「エシカルファッション (倫理的ファッション)」業界の中心的存在になるという夢は叶わないでしょう。